

CS こひつじ科礼拝式次第

2020年10月25日 午前9時30分

2020年度年間テーマ：「神は今も語っておられる。御言葉の恵みに生きよう。」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」
ヨハネによる福音書14章6節

10、ことりたちは（こどもさんびかをお用ください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ ヨハネによる福音書3章31～36節

「上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地に属する者として語る。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。この方は、見たこと、聞いたことを証しされるが、だれもその証しを受け入れない。その証しを受け入れる者は、神が真実であることを確認したことになる。神がお遣わしになった方は、神の言葉を話される。神が“霊”を限りなくお与えになるからである。御父は御子を愛して、その手にすべてをゆだねられた。御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。」

おはなし 「上から来られる方」

雨宮寧々先生

おはようございます。今日はヨハネによる福音書3章31節からの御言葉です。

まず、31節の言葉について注目していきましょう。

「上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地に属する者として語る。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。」

ここには2種類の人が出てきます。「上から来られる方」と「地から出る者」です。

「上から来られる方」とは父なる神様から派遣された御子イエス様のことです。そしてそれ以外の人はすべて「地から出る者」となります。人間は一人一人違い、異なった人生を歩むのですが、その全ての人間が一括りに「地から出る者」と呼ばれているのです。人間からすればこの区分は乱暴のようにも思えますが、神の真理を明らかにする上では必要なことです。ここでヨハネがはっきり伝えようとしているのは、それほど「上から来られた方」と「地から出る者」とは本質的に異なっているということです。上から来られる方は、他のいかなる人とも比較のしようがない御方です。それがイエス様なのです。そしてその御方の御言葉を私たちは聞かなければなりません。私たちは神様のことを自分で一生懸命考えて、勉強して、それで知ることはできません。私たち人間が真理を知ることができる唯一の可能性は「上から来られた方」の言葉を聞くことです。イエス様を通して私たちは神を知ることができるのです。

イエス様は「上から来られた方」として、神の真理を証しされる方です。イエス様だけが神の真理を証しされる方です。そして多くの人たちはこのイエス様の証しを受け入れることができませんでした。それは、自分の正しさを主張したからです。自分の思うままに生きたかったからです。自分の歩みを変えたくなかったからです。誰にも指示されずに勝手気ままに生きたかったからです。しかし、そのような生き方の先に何かあるかといえば、36節にあるように「神の怒りがその上にとどまる」のです。神様の正しい裁きが下されるのです。

私たちはそうなってはいけません。上から来られたイエス・キリストこそ神の真理を証しされる方です。私たちはその真理を受け入れるのです。地に属する私たちが天にある神の真理を知ることができるのは、このイエス・キリストによる他ありません。神の御子であるイエス様の御言葉に耳を傾け、それに従うことです。神の御心に従って自分中心を止めて神様にすべてを明け渡すのです。

その時こそ私たちは本当の幸いに与ることができます。イエス様は私たちに祝福するために上から来られた御方なのです。

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂2階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

朝礼拝においでの際におささげください。

34、わたしは しゅのこどもです (こどもさんびかをお用ください)